

茶 岡野園



[創業年] 1953年(昭和28年)

[売場面積] 29.3㎡(8.8坪)

[事業従事者数] 2.0人

[営業時間] 10:00~17:00

[定休日] 木曜日

[商品構成]

- 茶 85.0%
- 茶器 15.0%

[店舗所在地] 埼玉県さいたま市見沼区東大宮 4-7-7

[URL・SNS] <https://okano-en.com>

[経営理念]

- 【現代の町のお茶屋】～ひとに 日々に 寄り添う茶を～
- 伝統を守りながらも、現代のライフスタイルにあった形でサービスを提供していく
- 一服の茶を通じて、日常のなかに心豊かなひとときを

三世代で狭山茶の魅力を見いだす

【お店の概要】

埼玉県さいたま市で、狭山茶を扱う茶店。創業は、昭和28(1953)年。現代表は創業者の娘。現在は、創業者と現代表、さらに代表の長女、次女の三世代が力を合わせ、それぞれの世代の立場や視点から、狭山茶という日本茶の潜在的な価値を考え、形にして魅力を発信している。

長女は、主にデザインの視点からパッケージやロゴを提案。江戸時代の禅僧、仙涯の禅画「○△□」をモチーフにロゴを制作した。奥深い茶の世界を世代も国も超えて通ずるようシンプルに表現したロゴは、パッケージだけでなく、店舗入口の暖簾にして掲げている。

店舗を仕切る次女は、初代、2代と築いてきた量り売りの販売スタイルや、ほうじ茶・玄米茶の製法を守り引き継ぐ。昔ながらの直火焙煎機でほうじ茶を焙煎し、積



ロゴには「茶によって広くひとの心が通うように」との願いが込められている

極的に焙煎風景の見学を受け入れ、人気がある。現代表は狭山茶の特性やお客様一人一人の好みを聞くなどゆったりもてなす。

店舗に隣接する茶室では、茶道教室や日本文化を体験できる幅広いワークショップを開催している。



店内に並ぶ茶箱
初代・嘉一郎氏が書いた
岡野園の文字が映える



20年続く灰形教室



縄草履作り教室

【お店の経営ノウハウ】

埼玉県西部に産地がある狭山茶を、さいたま市という県中央部の都市で販売。鹿児島や静岡、京都などの一大産地に比べ大きくはないが、首都圏に近い良質の茶産地の魅力をどう伝えるか、そこに注視し、販売戦略にした。

ペットボトル飲料が普及し、従来通りの茶店のやり方では、茶のもつ魅力を生かしきれないことから、個々のライフスタイルにマッチした「茶のある生活」を提案する。それは「且座喫茶」という茶の本来あるべき姿で、それを端的表現したロゴデザインや客への対応で具体的に実践している。

三世代の家族がそれぞれの役割を明確にして、生み出した店に同店の強みがある。こうした地道で、息のながい取り組みが実を結んでいる。



店舗隣接の庭で火入れ作業を行う3代目と
それを見守る初代（嘉一郎氏）



茶箱の青が映える和モダンな店内